令和３年度　特別の教育課程「海と生きる探究活動」についての自己評価結果

令和４年３月

１　「海と生きる探究活動」の主題について　適切 100％

２　「海と生きる探究活動」の視点の内容や視点に沿った実践は推進されたか。

大変良い１０％　　よい 60％　　どちらとも言えない２０％

あまりよくない１０％　よくない 0％

地域の方々をゲストティーチャーとして授業に招いたことや，体験活動を行ったことなど，これまでの海洋教育で築き上げてきたことを生かしてきたことは探究課題を自分事ととらえさせる上で有効であった。

児童に探究学習への課題意識を持たせるための工夫に関しては取りかかりやすかったと思うが，学び合える探究型の学習法の構築について私たち教員がさらに深い学びと認識の共有が必要ではないかと感じた。探究したいと児童が主体的に学びに向かう上では，気持ちが動くことが最初に必要である。「不思議だ」「きれいだ」「おいしい」「悲しい」などの思いがあって、そこから自分が知りたいことや，やりたいことが出てくると児童が自分で動くのではないかと思う。また，教師が一緒になって面白がる，憤るなど，教師自身が主体的になる活動を模索することが必要である。

指導過程に「振り返り」を確実に位置付け，活動を自己評価させること，そのために「振り返りカード」や振り返らせ方についての工夫により学習を自己調整させていくことが必要であった。

３　「海と生きる探究活動」の組織と活動内容について

よい 40％　　どちらとも言えな 60％

特別の教育課程「海と生きる探究活動」について試行錯誤のスタートであったが１年間の活動の流れがイメージできたことはよかった。その中で様々な課題が見えてきたが，次年度からは実践しながらその課題を解決していきたい。

「海と生きる探究活動」の実践を通して日々の様々な教科での実践を積み重ね，児童たちに「自ら課題を見いだす力」と「身に付けた知識を活用する力」の土台を作る必要があった。「自ら課題を見いだす」ためには意欲を持てるような導入の工夫や体験活動の設定が必要である。

４　「海と生きる探究活動」実践に対する自己評価について

よい 20％　どちらとも言えない 20％　あまりよくない 50％　よくない 10％

「海と生きる探究活動」の計画を作成する中で何かを調べに行くこと自体が目的になってしまった活動もあった。自分で見出した課題の先を見通させることを活動の初期段階で示すとよいと感じた。まずは，教師自身が研究主題や学年のテーマについて課題意識を持ち，探究していこうとする姿勢が大切であり，そのためには，

① テーマについての予備知識を得るため年間指導計画を基にした活動の見通しを持つ。
② 地域連携や海洋副読本の活用等について確認する。
③ 自分でも様々な方法で探究を試みる。
④ 地域人材や関係機関とのコミュニケーションを深める（時間の無いところだが，

事前の打合せや事後の振り返りは多いほどよい。また，地域のイベント（クリーンオルレなど）に，可能な限り参加するとよい）。